

	1	2
実施団体名	アジア農村協力ネットワーク岡山	INE(居場所作りネットワーク)
学習プラン名	世界のお米料理 何が同じで何が違う？	多文化共生はだれのため？
主なテーマ	異文化理解、多文化共生	多文化共生
時限数	3 時限（但し、1 時限は 45 分間）	2 時限（但し、1 時限は 45 分間）
対象学年	小学校（5 年生以上）・中学校・高校	中学校・高校
1 回あたりの対象人数	30 名程度	40～50 名程度
学習のねらい及び 期待される成果	実際に調理、試食してその国の食習慣を体験し、また農業のシステムからその国の気候風土など様々なことを学ぶ機会を与える。 日本と同じところと異なるところを、食を通じて理解し、多文化共生について理解を深める	① 「多文化共生」の理解 ② 自分の考える「外国人像」の確かめ ③ 当事者（外国出身者）の生の声を聞き、気づきを得る ④ 多文化共生は多様性を認め合うことであり、他者を否定しないことを学ぶ
主な実施内容	[1 時限目] アジアなどの稲作地域の食文化の解説 [2 時限目] 調理実習（実習を実施しないことも可能） [3 時限目] 試食、後片付け <u>調理実習献立（例）</u> - カオパット（タイ） - フィッシュカレー（バングラデシュ） - パエリア（スペイン） - フォーや生春巻きなどお米の加工品（ベトナムなど） ・内容、品数は参加人数で調整します。 ・1 学年でクラスが多い学校や、実習時期が学習プランに合わない場合など、講義のみの実施も可能です	[1 時限目] 「多文化共生」について - 災害からの事例 (阪神淡路大震災・東日本大震災・岡山での災害) - 岡山で暮らす在住外国人の実情・課題 - INE 活動紹介:外国にルーツを持つ親子の実情・課題 - あなたの周りの外国人 [2 時限目] 当事者の話とまとめ (1)当事者の気持ち ①岡山で暮らす外国出身者に岡山での暮らしについて (2)グループでの話し合い ①「多文化共生」はだれのため？ ② 自分の考える「多文化共生」とは ③ 発表 (3) まとめ
学校が準備しなければならない機材・設備	調理実習室、プロジェクター、 調理実習で使用する食材費用の一部	パソコン、プロジェクター、マイク
講師派遣予定人数	1 名	5 名
連絡先	TEL : 080-5236-2309 E-mail : tsutomukobayashi200641@yahoo.co.jp	E-mail : ineokayama@gmail.com

	3	4
実施団体名	NPO 法人岡山日本語センター	岡山青年国際交流会
学習プラン名	お互いの言葉や文化を尊重して、 多文化共生社会を考えよう	Appreciating differences —ちがいを理解し、受け入れるために—
主なテーマ	異文化理解、多文化共生	異文化理解、多文化共生
時限数	2～3 時限（但し、1 時限は 40～50 分間）	2 時限（但し、1 時限は 45 分間または 50 分間）
対象学年	小学校・中学校・高校	中学校・高校
1 回あたりの対象人数	人数制限はありません	1 クラス（10～35 名程度）
学習のねらい及び 期待される成果	<u>学習のねらい：</u> 同じ地球上に住む人間どうしには類似点も相違点もあるということ、言葉が通じ難くても、相手の目を見て傾聴すればコミュニケーションができるということを体験から理解する。 <u>期待される成果：</u> お互いの言葉や文化を尊重し、相手の話を傾聴し、自分の伝えたいことを言葉で表すことによって、外国人と積極的にコミュニケーションをしようという意欲が生まれること。	岡山青年国際交流会は、「多文化共生社会」とはお互いの文化を尊重し合う社会であると考え、その価値観をより多くの人と共に学ぶことを大切にしている。本プランは、異なる文化をもつ人を未知の存在として拒絶するのではなく、共に生きる隣人として受容する姿勢を育てることを主目的とする。加えて、誰でも暮らしやすい社会づくりについて考えるきっかけをつくること、ならびに、岡山県在住の中高生と外国人との交流促進の素地を築くことを目指す。 具体的には、まず、イスラム教やイスラム教徒の暮らしを題材としたクイズやゲームを通じて、生徒が楽しみながら異文化への扉を開き、関心をもつように促す。その上で、岡山県在住のイスラム教徒が日常的に直面する問題について考察し、その解決策について議論する場を設ける。外国人講師と国際理解教育に造けいの深い日本人ファシリテーターのチームティーチングにより、生徒の知識を深めるだけでなく、想像力の枠を広げ、多文化共生社会の構築に当事者意識を持って取り組む姿勢を引き出す。 なお、これらの一連の活動は、道徳や総合的な学習の時間、社会の授業と関連づけた形で実施することが可能である。
主な実施内容	〔1 時限目〕 <u>世界の文化と繋がろう</u> ① 教室の前や横の机の上に並べた外国の日用品、玩具、先住民の工芸品等を、各々手に取って、実際に使ってみる。 ② 世界の文化の違いや繋がりを一緒に考える。 ③ 40 年前に当団体が岡山で最初の日本語教室を開設した理由と、現在の外国人の様子と日本語教室について学び、多文化共生社会には何が必要か考える。 〔2 時限目〕 <u>コミュニケーションについて考えよう</u> ① 外国人ゲストの自己紹介 ② 相手の言葉をよく聞くことや、わかりにくい時でも根気よく分かりやすい話し方を考えることを観察してもらう。 ③ 文化と言葉の繋がりと多文化共生社会で大切なコミュニケーションについてみんなで考える。 〔3 時限目〕 <u>日本以外の文化を持つゲストと話し合う</u> クラスまたは学年を外国人ゲストの人数にあわせて分けて、各ゲストの国、地域、言葉、岡山の感想などを、ゲストの目を見ながら日本語で尋ね、質問されたことには分かりやすく答えて話し合う。言葉が通じにくい時にはどうしたら良いかも考える。	〔1 時限目〕 <u>私の慣習</u> 選択肢を用意し、挙手性で、生徒が日々の暮らしの中で宗教に関する慣習にどの程度触れているかを把握する。 <u>国旗で仲間分け(アイスブレイク)</u> イスラム教徒が多い国の国旗でグループ分けをする。 <u>ムスリムクイズ(クイズ)</u> イスラム文化・慣習に関するクイズにグループ対抗で回答する。(食習慣、礼拝、断食月、ジェンダーについてなど) 〔2 時限目〕 <u>メッセージから読み取ろう(ディスカッション)</u> イスラム教徒が日常的に直面する問題について記されたメッセージカードを読み、「直面している問題は何か」「自分がその人の立場だったらどのような気持ちになるか」「なぜそのような気持ちになると思うか」の3点を議論する。 <u>私たちにできること(ディスカッション／発表)</u> 「メッセージから読み取ろう」で取り上げられた問題を解消するために、岡山県内でどのような取り組みができるかについてアイディアを出し、各グループから発表する。 <u>まとめ</u> 各グループからの発表を振り返ったうえで、岡山県内でイスラム教徒に対して、すでにどのような取り組みが行われているかを紹介する。
学校が準備しなければならない機材・設備	地球儀、外国の物を置く机 6 台	プロジェクター、延長コード、スクリーン、スピーカー（HDMI 接続でない場合）、マイク（会場の広さによっては不要）
講師派遣予定人数	6 名（日本人 2 名、外国人 4 名）	3～4 名
連絡先	TEL : 090-6400-6022 E-mail : ojc@diary.ocn.ne.jp	E-mail : okayama.iyeo.iyeo@gmail.com

令和 7 年度 国際理解学習プラン一覧（五十音順）



	5	6
実施団体名	岡山ユニセフ協会	青年海外協力隊岡山県 OV 会
学習プラン名	ユニセフと考えよう！世界とわたし	J I C A 海外協力隊の帰国報告 & 体験談
主なテーマ	異文化理解・国際協力・多文化共生	国際協力・国際貢献
時限数	2 時限	1～2 時限（但し、1 時限は 45 分間）
対象学年	小学校・中学校・高校	小学校・中学校・高校
1 回あたりの対象人数	1 クラス（応相談）	1 クラス（30～40 名程度）・100 名程度
学習のねらい及び期待される成果	① 世界の課題への好奇心を育む ② SDG s についての理解 ③ 多様性の理解 ④ こどもの権利の理解と推進 普段は遠くて意識しない「世界の子どもたち」や、世界の課題を知ること、世界が広がり、また相互に尊重して生きることの大切さを自分事として考える。	日本政府が行っている ODA の国際協力・国際貢献事業に参加してきた JICA 海外協力隊の経験者に、開発途上国のそれぞれの国々で宗教や価値観、肌の色、生活様式、文化の違い等、言葉の壁を感じながら現地の人々と同じ生活目線で活動してきた話を聞くことで、多様な世界を感じてもらうとともに、世界に向けて視野を広げることで、いろんな国々の人々とどういった形で寄り添うことができるかを考えてもらう機会を提供したい。持続可能な多文化共生社会への気づきを学んでもらいたい。
主な実施内容	[1 時限目] <u>ユニセフの活動と世界の子どもたち</u> ・世界の子どもたちの権利を守るために活動するユニセフについて知る。現地の動画や実際の支援物資（水がめ運び、学用品など）に実際に触れる。 [2 時限目] <u>世界とわたしのつながり</u> ・「こどもの権利条約」で保証されている権利について、日本を含む世界の課題として話し合う。 （参考教材・ワークショップ） ・世界こどもの権利カルタ ・チョコレートと児童労働ワークショップ ・世界がもし 100 人の村だったらワークショップ 等 ※ご希望を伺いつつ、柔軟に対応可能です。	◎活動報告の概要 任国・活動内容等 ◎派遣講師の任国・分野 派遣任国 アジア地域・アフリカ地域・大洋州地域・中南米地域・欧州地域・中東地域 分野別 ①人的資源：小学校教育・理数科教育・環境教育・青少年活動・スポーツ教育（柔道、体育等） ②保険・医療 ③社会福祉 ④農林業 ⑤商業・観光 ⑥エネルギー ⑦計画・行政 ⑧公共・公益事業 ⑨鉱工業
学校が準備しなければならない機材・設備	PC、プロジェクター、スピーカー、スクリーン	特になし
講師派遣予定人数	2 名	1 名
連絡先	TEL : 086-227-1889 E-mail : okayamaunicef@gmail.com	TEL : 090-7995-2267(近藤英生) E-mail : ex.jocv.okayama@gmail.com hurry.kondoh@gmail.com(近藤英生)

	7	8
実施団体名	世界女性会議岡山連絡会	ダフェプロジェクト
学習プラン名	私たちが考える持続可能な社会 ー平等・開発・平和ー	岡山で多文化共生を考えてみよう
主なテーマ	国際理解、国際貢献	国際理解、多文化共生
時限数	3 時限	2 時限（但し、1 時限は 45 分間）
対象学年	小学校・中学校・高校	小学校（4 年生以上）・中学校・高校
1 回あたりの対象人数	50 名程度	40 名程度
学習のねらい及び 期待される成果	・持続可能な開発目標【SDGs】から様々なことを知り、ローカルな視点とグローバルな視点を持ち、環境・社会・経済のバランスが取れた「平等・開発・平和」を考えるきっかけづくりになる。 ・地球規模の課題に関心を持ち、行動を起こすことに期待する。	岡山に住む外国にルーツのある人たちの国のことを知るきっかけを作る。同じ地域住民として認識しあう。 地域社会で国際理解・多文化共生にどう取り組むべきかを考える。
主な実施内容	【講義とグループワーク】 [1 時限目] <u>【世界の人々と私たち】</u> いま世界で何が起きているかを知る。世界の歴史を振り返り、これからの未来を考える。 地球上のすべての人々が幸せに暮らせるようになるには、どのようにすべきかをグループで考える。 <u>【世界とつながる私たちの暮らし】</u> 私たちの暮らしは世界とつながっている。国連総会で 2030 年に向けて合意した「持続可能な開発目標【SDGs】」の 17 項目を理解する。 SDGs 17 項目から、グループで自分たちが関心のある項目についてテーマ（内容）を決める。 [2 時限目] <u>【SDGs の課題への取組】</u> 関心の内容を解決できるような楽しめる SDGs すごろくを作る。 [3 時限目] <u>【平等・開発・平和から持続可能な社会づくり】</u> 持続可能な社会づくりができる、グループで作った SDGs すごろくを発表する。	[1 時限目] <u>「ネパールってどんな国？」</u> 岡山在住ネパール出身者にネパールのことを話してもらおう。 ネパールってどんな国なの？ どうして日本で生活をしているの？ 多民族・多宗教の国ネパールから多文化共生のヒントを考えてみよう。 [2 時限目] <u>「岡山から多文化共生社会を目指す」</u> 在岡外国人の国別・在留資格別の統計から見えてくる岡山の現状や日本語教室や多言語相談窓口など行政の取り組みなどを知ろう。 国際交流と多文化共生はどう違うの？ みんなでグループに分かれて話し合ってみよう。
学校が準備しなければならない機材・設備	模造紙 カラーマーカー【水性】、付箋紙	プロジェクター、スクリーン
講師派遣予定人数	2 名	3 名
連絡先	TEL：086-943-1318 E-mail：worldwomen1995okayama@gmail.com	E-mail：danfeoproject2998@gmail.com

	9
実施団体名	特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
学習プラン名	世界の多様性と格差から SDGs を学ぼう －「誰一人取り残さない」世界の実現に向けて今、私たちが知るべきこと、やるべきこと
主なテーマ	国際協力、国際理解、多文化共生
時限数	2 時限（但し、1 時限は 4 5 分～5 0 分間で調整可）
対象学年	小学校（5 年生以上）・中学校
1 回あたりの対象人数	体験的に学ぶアクティビティを行う場合 30-40 名が望ましいが、それ以上の場合はアクティビティを省略して実施することも可
学習のねらい及び期待される成果	2030 年の期限まで 5 年を切った SDGs は私たちの日常生活と密接 に関係しており、目標達成に向けて一人ひとりの行動が不可欠であると認識する。シミュレーション等を通じて、世界の多様性やそこに存在する格差を体験的に学び、遠い世界のことをより身近に感じてもらう。問題解決の一例として岡山に本部を置く当機構が取り組む具体的な活動等を通し、世界の現状について理解を深めた後に、国際社会の一員として自分ができることは何かを考え、行動に移すことができるよう促す。 【詳細】 「グローバルゼーションはどこか遠い世界で起こっているような …」「SDGs もそれほど関係ないような…」SDGs は私たちの日常生活と密接に関係していること、自分や教室の中とも世界はつながっているということに気づいてもらうのがねらいである。シミュレーションを通じて世界の多様性や格差を体験的に学び、遠い世界のことをより身近に感じてもらう。 ・ 問いかけにより、多くの気づきを促す ・ 「わたし」がどこに位置するか、世界の課題と「わたし」がどのようにつながっているかを考えてみるよう問いかける ・ 「日本で暮らしていてよかった」という感想で終わらないよう、世界の課題がどのように自分たちとつながっているかを伝える 世界の現状について理解を深めるだけでなく、その背景や私たちとのつながりについても考え、国際社会の一員として自分ができることは何かを考え、行動に移すことができるよう促す ・ 1 時限目と関連付けた事例の紹介を 2 時限目で行うことにより、世界の現状について理解が深まる ・ 1 時限目で得た気づきが課題解決に向けた姿勢につながる ・ 関心を持ち、積極的に知ろうとすることも重要な行動の一つであることが理解できる
主な実施内容	[1 時限目] シミュレーション教材等を使用し、世界の多様性と、そこに存在する格差およびその影響を背景と合わせて体験的に学ぶ。それにより、自分や教室の中とも世界はつながっている、という気づきを促す。 (1) 講師の自己紹介とゲームの導入<10 分> (2) シミュレーションゲーム<35 分-40 分> 【詳細】 「世界がもし 100 人の村だったら※」のシミュレーションや「SDGs4 教育キャンペーン（旧：世界一大きな授業）」その他統計データを使った ゲーム等を通じ、世界の多様性や、格差とその影響を背景と合わせて体 験的に学ぶ。それにより、自分や教室の中とも世界はつながっている、という気づきを促す。 例：「世界がもし 100 人の村だったら」 (1) 自己紹介とゲームの導入<10 分> (2) 100 人村シミュレーションゲーム<35 分-40 分> 各自が「役割カード」に書かれた情報（性別、年齢、地域、栄養状況、言語、挨拶の言葉、識字）に従って動く 1) 大陸ごとに分かれてみよう！ 大陸ごとのグループに分かれる→世界の人口の偏りを理解し、それによって生じる問題について学ぶ 2) 世界の言葉で「こんにちは」 同じ挨拶をしている人を探す→多様な言語の存在に気づき、言語間の壁を体験する 3) 文字が読めないということ ある言語で書かれた「座ってください」というカードを会場全体に提示し、その言葉の意味が説明されたカードを持つ参加者のみ理解して着席する→文字が読めない大変さを体験する 4) 所得が多いのは誰？ 所得レベルごとにグループに分かれ、分配される富（カード）の量を比較する→世界全体の富の偏りを体験する。 また世界のお金の使われ方を視覚的に学ぶ 人数が多い場合、または学校側の希望により、1)、2)、4)のようなアクティビティを外し、4 択などのクイズ形式や、少人数グループでの話し合いを行なう ※世界の人口を 100 人の村に縮小して考えることで、グローバルな問題 や多様性を理解しやすくする教育ツール。複雑なデータを視覚的に理解しやすくし、言語、宗教、経済状況などの多様性を具体的にイメージできる。SDGs に関連するテーマも扱い、持続可能な社会に対する意識を育てる。 [2 時限目] シミュレーションを振り返り、各自が感じたことや気づきを共有する。多様性や格差の具体例、問題解決の具体例として当機構の活動 国の状況および実際の取り組みを紹介して世界の問題に対する理解 を深め、行動に移す一助にする。 (1) シミュレーションの振り返り<10 分> (2) 当機構が活動している国の状況等を紹介する<10 分> (3) 課題をグループで話し合い、できることを考える<15 分> (4) SDGs の目標達成に向けた当機構の取り組みを紹介しながら、学習全体のまとめを行う<10 分-15 分> 【詳細】 シミュレーションを振り返り、各自の気づきや感じたことを共有する。また、多様性や格差の具体的な事例として、当機構が活動する国の状況や、問題解決への取り組みを紹介し、理解をより深める。国際社会の一員として、自分たちに何ができるかを考える。 (1) シミュレーションを振り返り、各自の気づきや感じたことを全体で共有する<10 分> (2) 当機構が活動している国の様子や、子どもたちが置かれている状況などを、1 時限目で扱った課題に関連付けて具体的に紹介する<10 分> (3) 問題と思われることをグループで話し合い、岡山にしながら自分たちができることを考え、意見交換する<15 分> (4) SDGs の目標達成を目指した当機構の取り組みを紹介しながら、学習全体のまとめを行う<10 分-15 分>
学校が準備しなければならない機材・設備	プロジェクター、スクリーン(パワーポイント使用)、マイク 人数に応じたアクティビティが行えるスペース
講師派遣予定人数	1 校あたり 2 名（1 時限に各 1 名）
連絡先	TEL : 086-232-8815 E-mail : info@amda-minds.org